C－9 乳児服設計に関する基礎的研究（第4報）－乳児の相対成長について－

お茶の水女大家政　天野節子　石井万津子　柳沢澄子
都立立川短大　○吉沢厚子

目的：従来，乳児の相対成長に関する研究は，身長・体重・胸囲等の基本的項目に関する2,3の研究があるのみである。そこで私どもは被服設計の立場から，多項目を用いた相対成長について検討してみた。

方法：資料は1か月から12か月までの乳児1316名（男児727名，女児589名）の横断的資料（1973年計測）である。研究方法は，体重・下肢長・上肢長・足長・肩峰幅・最大股幅の6項目それぞれの身長に対する相対成長，ならびに腹囲・腰囲の2項目それぞれの胸囲に対する相対成長について検討した。すなわち，基準とする身長・胸囲（x）を階級に分け，xおよび他の項目（y）の階級内の平均値を算出した。次に対数変換を行ないグラフを描き，グラフより変移点を検討し，allometry式　$\log y = \log b + \alpha \log x$　を求めた。

結果：1）男女児の身長－体重，身長－足長，身長－最大股幅，胸囲－腰囲，男児の身長－肩峰幅の各相対成長では，月令3～4か月に変移点がみられる。また，身長－最大股幅では，男女児ともさらに8～9か月に第2変移点がみられる。

2）女児の胸囲－腹囲の相対成長では2か月に変移点がみられる。

3）男女児の身長－下肢長，身長－上肢長，女児の身長－肩峰幅，男児の胸囲－腹囲の各相対成長では変移点はみられない。